

現代ベトナムにおける都市・農村格差とその要因

東海大学 高橋 壘

1. はじめに

今日のベトナムは 2020 年までに工業国となることを目指し、工業化を推進している。通常、工業化の推進は、都市化をもたらす、農村から都市への人口移動をもたらす。こうした都市・農村間移動の背景には Nguyen et al. [2007]が指摘するように、都市・農村間格差の拡大がある。Phan and Coxhead[2010]は、ベトナムにおける省間移動(inter-provincial migration) が不平等を縮小させる効果があることを分析した。本報告は、こうした近年の研究動向をうけ、ベトナムが経済発展を本格的に推進させた 1990 年代から 2000 年代を対象に、都市・農村間格差の時間的な変化と規模を推計し、その要因を分析することを目的とする。

2. データ

以上の目的のため、我々はベトナムの貴重な家計レベルマイクロデータを用いて分析を行った。これらのデータは、6 つの調査から得られたデータである。すなわち、VLSS (Vietnam Living Standards Survey) 1992/93 および 1997/98、VHLSS (Vietnam Household Living Standards Survey) 2002、2004、2006 の 6 調査である。VLSS の各年版、VHLSS の各年版は連続性をもち、パネルデータを作成することも可能であり、標本規模は、VLSS1992/93、1997/98 がそれぞれ 4800 戸、5999 戸、VHLSS2002、2004、2006 はそれぞれ 29532 戸、9188 戸、9189 戸である。

3. ベトナムにおける都市・農村間格差(1992/93~2006)

我々は、初めに VLSS の第 1 回調査が行われた 1992/93 年から 2006 年にかけて都市・農村間格差の規模がベトナム各地でどのように変化したのか、1 人当たり実質消費支出(対数)のカーネル密度推定(Kernel density estimation)を行った。その結果、以下のファインディングが得られた。1) 都市部および農村部の平均消費支出は 1992/93 年から 2006 年にかけて、わずかに改善している、2) 全国的に、都市内および農村内格差(within-group disparities)はともに拡大している、3) 社会主義が浸透したベトナム北部では、初期時点(1992/93 年)の都市内、農村内格差、都市・農村間格差は比較的小さいが、2006 年にかけて、それらの格差は拡大している。

4. 都市・農村間格差の要因—不平等のサブグループ分解—

次に我々は、先に確認した都市・農村間格差の要因を考えるためタイル指数(Theil index)による不平等のサブグループ分解を行った。ここでのサブグループとは、都市・農村グループ別、地域別(紅河デルタ、東北部、西北部、北中部、南中部、中部高原、東南部、メコンデルタ)である。分析の結果得られた主なファインディングは下記の通りである。1) 全体の不平等度は 1992/93 年から 2002 年にかけて拡大し、その後縮小している、2) 農村部の不平等度は一旦縮小するものの、その後拡大している、3) 都市部の不平等度は拡大と縮小を繰り返すが、規模は農村部を上回る、4) グループ間格差の全体の不平等に対する寄与度は一旦増加し、その後減少する、5) グループ内格差の寄与度はグループ間格差よりも大きい、6) 大都市が存在する地域の不平等度は大きい。

5. むすびにかえて

以上の分析から、都市・農村間格差は拡大しているものの、全体の格差に与える寄与度で見るとグループ内格差(都市内、農村内格差、地域内格差)に比べ、必ずしも大きいとはいえない。これは、今日ベトナムで問題となっている「農村人口の固定化(Fixity of rural population)」にも深く関係していると考えられる。

主な参考文献

- [1] Nguyen, B. T., J. W. Albrecht, S. B. Vroman and M. D. Westbrook [2007] “A Quantile Regression Decomposition of Urban-Rural Inequality in Vietnam.” *Journal of Development Economics*. 83(July, 2), pp.466-490.
- [2] Phan, D. and I. Coxhead [2010] “Inter-Provincial Migration and Inequality during Vietnam’s Transition.” *Journal of Development Economics*. 91(Jan., 1), pp.100-112.